

活字資料のテキストデータ化 障害者のための読書支援機器活用講座、他

千葉県 千葉県立西部図書館

基本データ

所在地	千葉県松戸市千駄堀 657-7
職員数	23人
うち司書数	14人
蔵書数	約280,000冊
利用登録者数	約16,000人
年間貸出冊数	約50,000冊 (児童用図書貸出数 約800冊)

テーマ・活動のねらい等

【テーマ】バリアフリーの取組、子供の読書啓発、子供に対するサービスの充実、最新技術の導入、情報機器等の活用

【活動のねらい】

- 活字資料のテキストデータ化は録音図書や点字資料に比べ、短時間で製作できるため、そのメリットを活かし、より迅速な資料提供を求める利用者のニーズに対応する。
- 読書支援機器の最新事情や活用法について実演を交えて紹介することで、障害者の読書環境の改善、充実を図るとともに、図書館における障害者サービスの利用拡大につなげる。
- 障害のある生徒が、図書館の利用を通じ、在学中はもとより、卒業後も豊かな生活が送れるように、また国の施策でもある「障害者の生涯学習を推進」につながる事業として始めた。

取組・活動の概要

(1) 活字資料のテキストデータ化

【対象】活字による読書が困難な県民

【取組の概要】

- 希望する活字資料からパソコン等で音声読上げをしやすいテキストデータを作成して提供する。作成手順は、パソコンを使いスキャナと文字認識ソフトで活字をデジタルデータとして抽出した後、テキスト訳者の手で校正し、利用に適した形式に整えて提供する。
- 提供方法は、メールによる送付、SDカードやUSBメモリ等による郵送。

(2) 障害者のための読書支援機器活用講座

【対象】

- 活字による読書の困難な県民とその支援者、市町村立図書館職員、特別支援学校教職員等

【頻度・時期】

- 年1回・1月頃

【取組の概要】

- 拡大読書器や活字を読み上げる機器、デジタル録音図書の再生機器の説明並びにICTを活用した読書の最新動向の紹介等を行う。



障害者のための読書支援機器活用講座の様子

(3) 特別支援学校での「図書館の使い方」の授業

【対象】

- 特別支援学校高等部生徒

【頻度・時期】

- 平成30年度事業を開始。30年度は1校1回、令和元年度は2校で各1回、2学期に実施

【取組の概要】

- 図書館についてクイズ形式で紹介した後、学校の要望、生徒の特性に合わせて、本の借り方の体験活動やパソコンを使った図書館ホームページでの本の検索方法を取り入れた授業を行う。



特別支援学校での「図書館の使い方」の授業の様子

取組・活動の工夫や特徴

(1) 活字資料のテキストデータ化

- 活字資料を録音図書として作成する場合、音訳者1名若しくは2名程度で作業をするため、完成までに時間を要するが、テキストデータ化の場合、複数のテキスト訳者で分担して作業に当たることにより製作時間が短縮でき、利用者に迅速に資料を提供することができる。

(2) 障害者のための読書支援機器活用講座

- 障害のある職員が講座の企画・運営に携わり、当事者や支援者の視点を活かしながら実践に即した講座を開催している。

(3) 特別支援学校での「図書館の使い方」の授業

- 生徒の発達段階や障害の特性に合った授業内容にするため、事前に学校を訪問し、担当教員と打合せを行った。
- 各校でフィードバックができるように、授業で使用したパワーポイントと授業のシナリオのデータを提供した。

取組・活動の成果や今後の展望

(1) 活字資料のテキストデータ化

- 利用者に使い勝手等のヒアリングを随時行い活動に活かしている。今後も継続的にテキストデータ化のための講座を開催し、テキスト訳者の養成を推進する。

(2) 障害者のための読書支援機器活用講座

- 講座開催時にアンケートを実施し、次回の講座の内容や講師選考の参考にしている。県内自治体においてこのような講座を開催できるように更なる普及を目指す。

(3) 特別支援学校での「図書館の使い方」の授業

- 今後も実践を重ねながら、それぞれの学校や地域のボランティア、あるいは市町村の図書館でも実施できるようなプログラムを開発し、普及していく。